

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 B-11 外国人児童生徒教育②を実施しました！ 「実践をシェアしよう～わかりやすい授業のために～」

【講師】伊賀市外国人児童生徒日本語指導コーディネーター 船見 和秀さん

8月20日(木)、「外国人児童生徒教育②」の講座を実施しました。

前半は藤森照美さん(緑ヶ丘中)の実践から学ばせていただきました。日本語指導が必要な中学3年生の生徒と、週7時間個別学習に取り組まれています。その中で①授業規律の徹底 ②学力の把握 ③家庭の背景を知る ④クラスと授業進度を合わせる ⑤粘り強く取り組む姿勢(生徒に求める姿) ⑥やさしい日本語を使うことを意識していると報告されました。特に⑥については、今までも「この言葉の意味がわかっていたら解けていた」と思われる生徒がいたという点から、学習言語獲得への支援が日々行われ、個々の進路保障に向けて取り組まれていました。



後半は船見先生から「教科書の問題をリライトしよう」と題して、グループワークを行いました。小学5年生の理科・社会・算数の教科書の1ページを抜粋し「この日本語の表現は難しいかもしれない」という言葉を模造紙に書き出しました。それらをやさしい日本語に換えたり、図示したりしてわかりやすくなるよう各グループでアイデアを出し合い、その後、全体で交流しました。船見先生からは「着眼点が大事。言葉が出てきたら、増量⇔減量、重い⇔軽いというように反対語や反義語のあるものはセットで教える」とご教示いただきました。また3文字以上は斜線を入れ、読みやすく、意味もわかりやすく支援することも教えていただきました。「増量後」は「増量/後」、「非現実的」は「非/現実/的」という風に区切り、算数の授業でありながら国語を学ぶ要素も含まれているということをお示しいただきました。語彙の獲得や理解、専門用語の習得に向けて、日頃の授業中での工夫が、子どもたちの意欲や理解に大きくつながることを学びました。

ご参加いただいた先生方には実践に活かしていただくとともに、各校で還流していただきますよう、お願いいたします。

アンケートより【一部抜粋】

・緑ヶ丘中学校の実践報告は、きめ細やかな丁寧な内容でたくさん学習させていただきました。日本語学習室で授業規律がきちんと指導されているということで、この経験が高校入試の面接にも大きく関わるのだらうと思いました。ワークショップはこれからの授業を進めていく上でとても役立ちました。【小】

・最後の船見先生のお話、気づきが多くありました。単に言葉をやさしくするだけでなく、文を短くする、算数をしながら国語を学ぶ、図や写真で示す、生活経験を考える等、2学期からの実践の中で意識していきたいと思います。【小】

・小学校の先生とご一緒させていただき、細かい配慮の視点がとても参考になりました。もっとアンテナを高くして支援できるように、常日頃から考えていきたいです。【中】

・「言葉を覚えさせるときは、反対の言葉も一緒に」や固有名詞の増補、単語を切っていくことなど、今まで気づかなかった視点を知れて良い機会になりました。改めて教科書を読んでもみると、つまずくところがたくさん見つかったので、これからの教材研究に活用していきたいと思いました。【中】